

令和5年白老町議会全員協議会会議録

令和5年8月18日（金曜日）

開 会 午前 9時59分

閉 会 午前10時45分

○議事日程

1. 町立病院改築に向けた取組状況について
-

○会議に付した事件

1. 町立病院改築に向けた取組状況について
-

○出席議員（13名）

1番 久保一美君	2番 吉谷一孝君
3番 貳又聖規君	4番 佐藤雄大君
5番 西田祐子君	6番 前田博之君
7番 森哲也君	8番 大渕紀夫君
10番 小西秀延君	11番 及川保君
12番 長谷川かおり君	13番 氏家裕治君
14番 松田謙吾君	

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

町 長	大塩英男君
副 町 長	古俣博之君
副 町 長	竹田敏雄君
政策推進課長	富川英孝君
建設課長	瀬賀重史君
町立病院事務長	村上弘光君
政策推進室主幹	温井雅樹君
町立病院事務次長	菊池人氏君

○職務のため出席した事務局職員

事務局 長	本間力君
主 幹	小山内恵君

◎開会の宣告

○議長（松田謙吾君） それでは、ただいまより全員協議会を開会いたします。

（午前 9時59分）

○議長（松田謙吾君） 本日の全員協議会の案件は、町立病院改築に向けた取組状況についてであります。

それでは、町側より説明を求めます。

大塩町長。

○町長（大塩英男君） 全員協議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。町立病院の改築事業につきましては、本年3月会議におきまして事業費の増嵩に関わる追加の債務負担行為を設定させていただきましたが、現在の社会情勢や建築業界の人材不足等のおおききを受けまして、物価上昇額がさらに増額となりまして、また提案当初からの設計変更等の影響により実施設計後の改築事業費が大きく増嵩いたしました。この増嵩いたしました事業費を抑制するため、本年4月から7月までの3か月間、資料にもありますとおり合計で18回JV側と価格交渉を行いまして、去る7月18日に設計施工、追加工事であるアスベスト対策等も含め、35億8,000万円で双方妥結しました。また、工期についてであります。価格交渉が長期化したことなどにより、本年3月の全員協議会でお示ししました工期から半年程度遅れまして、開院時期が令和7年5月になる予定でございます。新病院の開院を心待ちにいただいている皆様には再度の延期となり大変申し訳ございません。今後におきましては、依然として見通せない現在の社会情勢や北海道内札幌圏域を中心とした大型工事など、本事業に関わる影響が一定程度あるものと捉えており、引き続きこのような状況を注視しながら、新病院の開院に向け全力を尽くしてまいります。本日は、これまでの価格交渉の経緯などについて担当よりご説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） それでは、町立病院改築に向けた取組状況についてご説明をさせていただきたいと思っております。資料1につきましては、全体を通して私からご説明をさせていただいた後、資料2の価格の変遷につきましては温井主幹からご説明をさせていただき、進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず資料1を御覧いただきたいと思います。町立病院改築に向けた取組状況についてでございます。1番目、価格交渉の経過ということで、(1)交渉経過でございます。本年度に入りましてから4月13日、価格変動内訳の提示を受けて以降、18日からは健康都市活動支援機構の価格変動内訳の検証を経て、4月26日からは実際の価格交渉を開始してきた状況になってございます。大塩町長からもお話ありましたとおり、交渉回数については全18回という回数を重ねてきてございまして、7月18日に価格の交渉を終了し、一定の妥結をみた形になってございます。

(2)交渉の概要でございます。令和4年1月26日付で基本協定書を締結しております。これ

に基づいて価格交渉を実施してきました。増額要因につきましては、提案当初からの設計変更分、資材高騰等による物価上昇分、病院解体に伴う既存病院のアスベスト対策等、主に3つの追加工事が要因となっております。これに対する対応といたしましては、設計変更の取りやめ、いわゆるVEと言われますけれども、バリューエンジニアリングということで、性能や機能を下げずにコストを抑えるという方法を積極的に取り入れ、コスト縮減に努めてまいりました。また、物価上昇率については、全国の物価動向あるいは健康都市活動支援機構の査定の経過を踏まえてJV側と交渉を行ってきております。(3) 価格交渉後の妥結額、設計施工合計としては39億5,759万1,000円という当初提示。これについて、35億8,000万円という金額で妥結をしたいと思っております。増額要因、上段の枠組みですけれども、当初提示されました39億5,700万円の中にあつては、設計変更で4億3,600万円、物価上昇7億900万円、物価上昇の監理分として220万円、アスベスト等の追加工事で1億5,950万円となっております。この価格交渉を踏まえての増額要因、変更後になってございますけれども、設計変更については2億300万円、物価上昇については5億6,600万円、監理分については据置きということで物価上昇はみないということがございます。アスベスト等についてはそのまま1億5,950万円で、26億4,990万円からの増額13億を越えていましたけれども、価格交渉の結果3億7,700万円縮減に努めまして、実際の増額は9億3,000万円になってございます。先ほど申し上げましたとおり、内訳、変遷については後ほど資料2で説明させていただきたいと思っております。

裏面を御覧いただきたいと思っております。2番の全体事業費でございます。まず、事業費ですけれども、プロポーザルの提案当初については、26億4,990万円。そのうち病院が20億9,300万円。介護医療院が5億5,690万円となつていたところでございます。価格交渉後においては、右赤枠になりますけれども、35億8,000万円。そのうち病院が28億2,800万円、介護医療院が7億5,200万円で、事業費の差額については9億3,010万円となっております。財源でございます。当初ですけれども、基本的には国保調整交付金、都市防災補助金等を踏まえて補助金3億5,800万円で、残りを地方債で22億9,190万円、合計の26億4,990万円を財源手当てと考えてございました。価格交渉後になりますけれども、これまで都市構造再編集中支援事業補助金の活用を目指して立地適正化計画の策定を踏まえまして、現時点では16億2,700万円を補助金として獲得を目指して進んでいくことになっております。この結果、地方債としては全体で19億5,300万円、差額ですけれども補助金が12億6,900万円増額になってございますので、事業費9億3,000万円の増に対して地方債の借入れの部分につきましては、3億3,890万円抑制できる見込みで進んでまいります。なお、この按分につきましては面積で按分しておりまして、病院が79%、介護医療院が21%という内訳、按分率で計算をしております。

3番、工期への影響になってございます。本日まで価格交渉ということ踏まえてお話をさせていただきました。本日全員協議会で説明をさせていただきまして、来週議会を開いていただいで関係予算の補正予算を提案させていただきたいと思っております。契約の締結は補正予算が通りましたら速やかに月内には行い、その後起工式を現在9月26日に予定しております。I期工事、建物本体ですけれども、当初の令和5年5月から令和6年9月までが令和5年9月

から令和7年2月で、工事の期間も17か月から18か月と一月延びております。こういった建設工事でございますので、お盆とかお正月とかの機会を挟むことによって、工期については多分に影響を受けた状況になってございます。当初は開設の準備を令和6年10月までとしていたところが、交渉後現状では令和7年3月から4月、この2か月くらいを開設準備に当たらせていただきまして、結果、開院予定が令和6年10月頃を目指しておりましたが、半年ほど遅れまして令和7年5月ゴールデンウィーク明けを予定してございます。

全体を通しまして、価格交渉の経緯、金額、財源の内訳、工期について簡単ではありますがありますが、説明等をさせていただきたいと思っております。この後、価格交渉の変遷ということで資料2に基づいて温井主幹から説明させていただきます。

○議長（松田謙吾君） 温井政策推進課主幹。

○政策推進課主幹（温井雅樹君） 私から資料2、価格交渉の変遷についてご説明させていただきます。資料2を御覧ください。まず、この資料でございますが、①プロポーザル提案時から④価格交渉妥結時までの価格交渉の経過を図示したものでございます。

初めに①プロポーザル提案時のJVからの提示額でございますが、一番右端の総合計のとおり26億4,990万円となっております。

次に②3月の全員協議会に説明した債務負担行為上限額についてでございますが、黄色で着色した変動分を中心にご説明させていただければと思います。まず、設計変更のB欄で1億円増となっております。その内訳としましては、基本設計時に追加要望しました車両スロープの勾配緩和とか、消防活動スペースの整備、太陽光パネル用地確保のための南側樹木の伐採など、全7項目の変更が主な増加要因となっております。次に、施工の物価上昇D欄でございますが、率で18.1%の増。額面では4億7,000万円の増となっております。こちらにつきましては、令和4年10月時点の日本建設業連合会の物価指数の推移から年度末の物価上昇率を推計して算出したものでございます。そして、工事監理の労務費上昇分のH欄220万円とアスベスト対策等の追加工事のK欄1億5,900万円を加えて総合計33億8,525万6,000円として見込んでおりました。

続いて、③実施設計終了後のJVからの提示額でございますが、設計変更のB欄で3億3,600万円増の4億3,600万円がJVから提示されております。その内訳としましては、各院内の居室への吊り戸棚とか、造作建具の追加、小児病床の間仕切り壁の防音化、ベビーキープの追加など病院現場からの要望で28項目のほか、1階ピロティ内への防火シャッターの追加など、行政指導による変更で4項目、そのほか設備機器や配管等の調整とか、工期延長に伴う冬季施工対応など、協議による施工工法の見直しで33項目、合計65項目が増額要因となっております。次に物価上昇のD欄でございますが、率で6%増の24%、額面で7億990万7,000円となり、これらに追加工事を加えて総合計として39億5,759万1,000円が提示されております。

最終的に④でございますが、交渉価格結果であります。まず、設計変更のB欄を2億3,000万円減額させまして約2億400万円に抑えました。これにつきましては、設計変更の取りやめによって提案当初の使用にと巻き戻したことで、性能や機能を落とさず製品のグレードを下げる

ことで44項目のコスト削減を図ってまいりました。次に、施工費の物価上昇のD欄でございますが、率を3.21%減少させ20.79%に抑えました。これは、機構の査定結果とか、直近の日本建設業連合会の指標を根拠にJVと粘り強く交渉を行いまして、率の抑制を図ってきた結果となっております。工事監理の物価上昇分H欄も皆減させまして、総合計として35億8,000万円で価格妥結いたしました。以上で価格交渉の変遷についての説明を終わらせていただきます。

○議長（松田謙吾君） ただいま説明がありました。この件について特に確認しておく必要のある方はどうぞ。

3番、貳又聖規議員。

○3番（貳又聖規君） 3番、貳又です。説明資料の関係で、2ページ目の全体事業費の価格交渉後、令和5年7月時点で財源内訳の説明がありました。ここで、令和4年4月1日時点では補助金は国保調整交付金ですね。そこから比較して約3億4,000万円削減されたという比較数値が出ておりますが、1点確認をしたいのは、都市構造再編集中支援事業補助金を適用するようになってから、今年の4月でもいいですが、それ時点では26億円だったのですよね。それによる財源内訳、それはどう変動しているのかをお聞きしたいのです。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） ご質問の意図としては、26億4,490万円に都市構造再編集中支援事業補助金を当てた場合の財源の状況かと思いますが、この都市構造再編集中支援事業については、基本的には26億4,990万円ではなくて、債務負担行為とか、そういった設定を見据えた中で、金額自体は30億円を超える数字で概算要求、申請をさせていただいて、本年度13億1,340万円の補助金額を頂戴したことでございまして、26億4,490万円にすなわち...

〔何事か呼ぶ者あり〕

○政策推進課長（富川英孝君） 昨年度末に債務負担行為の設定をさせていただきまして、現状としては33億8,000万円強という数字で補助金の申請をさせていただいて、令和5年度においては13億1,340万円という数字を頂戴しております。この中での16億2,700万円につきましては、次年度以降もこの事業を複数年でやっていくことになっておりますので、3億円強の補助金については次年度以降の獲得を目指す内容になってございます。

○議長（松田謙吾君） 3番、貳又聖規議員。

○3番（貳又聖規君） 3番、貳又です。これは全員協議会なので指摘ということにしたいと思うのですが、来週補正予算になります。私としては資料が不足していると思っています。1つの指摘としては、まず全国の自治体を見渡した中で報道いろいろされておりますが、各自治体には病院等も含むいろんな公共施設ありますが、物価上昇で1割くらい高くなったら1回立ち止まったりやめてしまったりという値段組んでいる自治体ありますよね。そういったものがしっかりなければ、町民の皆さんに納得していただけないだろうと私は考えるのです。ですから、全国の各自治体が、1割以上金額が変わったら検討しながら中止しているとか、そういったところはあるべきかと指摘いたします。2点目の指摘なのですが、これは実際に町民の皆さんの血税も増えます。その中でいくと、立派な箱物ができたとしても、これをいかに新

病院にしてからどのような経営を持って収益を上げて採算がとれるのかと。少なくとも道内の知る自治体では、病院を建築しているところはありますが、ある道内の自治体では、町民の皆さんに経営をこのように構造させながら、病院にかかる建築費等は採算がとれることをしっかり説明しているのです。ですから、立派な箱ものができたとしても、その中身にふさわしい病院経営をしながら 10 か年でもいいので経営シミュレーションを見せてしっかりしたものをやらなければ、議員の皆さんも町民の皆さんもそうですけれども、今後どのようになっていくのかという不安は払拭されないと思いますので、2つの資料はしっかり提示すべきと指摘させていただきます。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） まず私から事業費増嵩に関しての再検証、再検討が必要ではないかという点に対してご答弁させていただきたいと思います。事業費につきましては、金額的には物価上昇を踏まえて、我々も小さくない非常に大きな金額をこの事業としては増嵩している認識がございます。ただ一方では、このプロポーザル提案時、当初の部分の補助金と起債の財源の内訳の関係が1つ我々にとっては心のよりどころではないのですけれども、軸を持ってやっていくために必要な内容であったと思っております。おっしゃるとおり、提案から物価上昇がなければ、おそらく 26 億 4,490 万円に対して 13 億円くらいの補助金をもらって 2 分の 1 をこの事業費としてやっていくことになれば、地方債は 13 億円で済むわけですから、今の 19 億 5,300 万円物価上昇後という価格妥結後の数字よりも、やはり 6 億円くらい少ないのではないかと考えておりますが、元々プロポーザル提案当初でいいますと、補助金については 3 億何がししかない状態での事業のスタートであった中で、我々は財源をできるだけ獲得して、自治体としての負担を軽減することで、都市構造再編集中支援事業補助金の獲得を目指して立地適正化計画、あるいは整備計画を踏まえながら、今日補助金を含めて 26 億 2,700 万円獲得できる状況にまで持ってきました。実際の事業費については 9 億 3,000 万円ですけれども、地方債については当初の状況に比較しますと 3 億 4,000 万円弱圧縮できた中で、こういった地元負担、自治体負担の軽減を図り進めていきたいということで今日に至ってございます。新聞等々の報道でもやはりいろいろな状況を踏まえて病院改築一旦立ち止まっていると耳にすることもございますが、我々共に事業を進めようとしているほかの自治体については、この事業を進めるということの大義を優先しながら同じように物価上昇の状況もありますけれども、進めている事例もございますので、我々としては現状で当初の予定よりも地方債ですとか自治体の負担を軽減した中で事業を進めさせていただきたいということでございます。

○議長（松田謙吾君） 村上病院事務長。

○病院事務長（村上弘光君） 私から 2 点目の、新しい建物を建てても病院の経営に跳ね返って来るのか、どれだけ厳しい病院経営の中で 35 億 8,000 万円、今後起債の元利償還金が当然経営にのしかかってくることで、まず今後の病院の経営の資料をお示しできないのはお詫び申し上げます。当然今年度病院の経営大変厳しい中で改善計画を改定しなければならぬと考えておりますし、また総務省からも経営強化プラン、これは令和 5 年度、今年

度中に策定しなければならないとなっております、当然この経営改善計画の中に起債の元利償還金、これを含めた中で今後病院の経営がどうなっていくのかは、しっかり年度内にお示しさせていただく形で病院関係として準備をしてございますので、今日のところは数字をお示しできませんが、経営の今後の見通し、これは町民の方にもしっかりお示ししたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 3番、貳又聖規議員。

○3番（貳又聖規君） 3番、貳又です。富川課長から説明があった財源内訳の重要性ということをおっしゃいました。それが当初スタートの3億円から16億円になって13億円プラスになったというお話ですが、これは建設をするという目的に感じてしまうのです。要は補助金が増えたからいいだろうと。私が申しているのは、町民の皆さんの不安は何かというと、これからの白老の将来なのです。なぜ経営シミュレーションが必要かということ、おのずと26億円の病院と35億円の病院はこれから建てられれば、それに関する光熱水費とか全く変わりますよね。そこもしっかり示していますかということなのです。それが、どうしても今回補助金を獲得して3億円が16億円になったとか、建設のスタート部分の話ではないのです。議場で何度もやっていますよね、白老町の今後の将来に関わる本当に50年に一度あるかどうかの重要な時です。そんな中で、将来を見据えたような説明がない、財源的なお話もない、そこが不安なのです。それで町民の皆さんが納得できますかと言ったらそれはできないのです。最後の指摘です。それに対して答弁はなくてもいいです。

○議長（松田謙吾君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 議員から2点ほど大きくご質問がありました。まず1つ目は、これだけ事業費が高くなったことで立ち止まるべきではないかということと、もう1点は今後の経営的なシミュレーションのお話、この2点をいただきました。まず1点目の立ち止まるというお話ございました。正直私も事業費が高くなったことで建設だけを考えたときに、今後どのようにしていったらいいか悩みました。ただ、新しい病院を建設することは議会も町民の皆さんも総意として決定をいたしましたので、しっかりとした病院を造るべきということで結論を出して、今回ご提示をさせていただいております。1つだけご理解をいただきたいのは、補助金の部分もそうですし、あとはお示しましたとおり事業者との価格交渉を計18回行ったことで、これは本当に職員一生懸命やったと思っております。ここはやはり皆さんの血税を使って建設する形もありますので、職員は一生懸命価格を抑制する思いでやってきたことはご理解いただきたいと思っております。議員からもご指摘があったように、建物が立派になればそれでいいとは決して思いません。やはり建物はもちろん町民の皆さんの安心安全、耐久性とか、議員の皆さんもご承知のとおり、今の町立病院の建物を見ると、決して褒められる建物ではございませんので、しっかりとした安心安全を提供する建物でなければならないというのがまず大前提ですが、やはり中身がしっかり伴っていなければ町民の皆さんに愛される病院ではないと思っておりますので、これは確実に一步ずつでも前に進めていきたいと思っております。それともう1点、経営のシミュレーションのお話です。ランニングコストも含めて資料1の全体事業費

を見ていただくと、地方債がほとんどということで、これは後年度の方々への負担になるのは間違いございません。ですから、今後どのような状況になっていくか、資料をご用意できなかったのが大変申し訳ないのですが、経営シミュレーションについてはしっかり機会を設けてお示しをしたいと考えております。ただ、これも先ほど補助金の額が高くなったから、多くいただけるようになったからいいではなくて、しっかりとした今後のランニングコストを含めて、今の白老町の財源を踏まえた中で、この金額であったらきちんと将来的に安定的な財政運営ができるであろうという町の判断の中で今回規模を変えずに、当初お示ししたとおりの規模で新病院の建設を行っていく決断をしたということをご理解をいただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 3番、貳又聖規議員。

○3番（貳又聖規君） 3番、貳又です。誤解を招いては困りますので、私の発言の趣旨は、病院は立ち止まるということではないのです。9億円増えてもふさわしいしっかりとした説明資料を付けて、町民の皆さんにも理解をいただけるようにしなければならぬことですから、病院の建設を立ち止まってやめなさいとかそんなことは言っていません。それにふさわしい資料を付けてくださいと。しかるべき説明を町民の皆さんにしなければならぬということです。

そしてもう1点、先ほど町長から、もちろん議会も病院建設について皆さん賛成はしましたということですが、1つだけ皆さん共有をしなければならないのは、当初プロポーザル決定したとき、デザインビルド方式とったときに、これは最良の手法だと思うのです。ただ、そこから状況変わりましたよね。要は、ロシア、ウクライナ情勢になったということです。それが、では当初のプロポーザルやったときに、この物価高騰になっていましたかといったときに、そうではないですよ。ですから、その当時は何もそういうことがなくて、病院建設に対しては私も賛成しました。そこから状況が変わっているのだから、それは全国の自治体を見てもそうでしょうと言っているのです。ですから、ご答弁の中で既に議会の皆さんも認めたでしょうと、そういうことではなくて、私の思いは先ほど言った、しっかりとした納得のいく資料。そして、不安がないようなもの。それを皆さんしっかり踏まえた中で進めなければ、よりよい病院にならないという思いです。

○議長（松田謙吾君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） ご指摘いただきましたことについては、町長からも答弁ありましたように、私たちとしては指摘があったように、状況としては令和4年1月のプロポーザルのときとは変わって、変わって、変わってという社会状況の中でどうすべきかと内部の中でも悩みながら進めてきました。何度か議員の皆様方からも、また町民の皆様方からもどうなっているのかとか、今のこの状況で本当に当初の財源だけでやっていけるのかという話も、私自身も受けております。ですから、そういうことを今一度ご指摘あった説明資料をどう進めてきたか、価格について変遷はあって進めてきた話はありませんけれども、今後のランニングコストとか起債をどういうふうにして将来的に返していくのかとか、そこは今後予定している会議の中でお示しをさせていただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 8番、大淵紀夫議員。

○8番（大淵紀夫君） 8番、大淵です。1つは、周辺整備事業は今回の数字の中には入っていないという理解でいいのかどうか。債務負担のときは一覧表の中に入って、それが合計の中で出ていますよね。ですから、そこら辺がどうなっているか、それはそのまま普通にやるのかどうか。もう一つ、資料の話が出ましたが、分かりやすいということで言うと、令和4年の11月分については今回比較表出ていますが、令和5年度予算で見ている部分ありますよね。その比較表のようなものがつくれないものか。それを見ると非常に分かりやすいのではないかと思います。3点目、いろいろありますけれども、私は町の努力は補助金の関係も含めて非常に高く評価したいと思います。これははっきりしています。これがなかったらできないわけですから。ですから、ここの努力は本当に評価をしたい。ただ1つ、2年度にまたがって、先ほど課長の答弁の中で2年度目に3億円強の補助金を獲得したいということがあったのだけど、これは可能性としてかなり大丈夫な中身になるのかどうか。新たな事業ではないわけでしょう。今の予算を通すためではないとは思いますが、ここら辺はどれくらいの確信を持っているのか。今までの契約後の物価上昇、設計変更でどんどん価格が上がっていますよね。萩野小学校もそうだったし、どんどん新たに見つかったものもあるのだろうけど、そういうことがこの契約の中できちんとうたわれているのかどうか。要するに、契約してしまっただけで、もう工事に入ってしまったら変更しないと、できないとなってしまったら1億、2億という金がどんどん増えるとなると、これはまた大変なことになってしまうのではないのかと思うのだけど。そこら辺は契約の中にちゃんとブレーキを掛ける、ガードがあるのかどうかということです。それから、地方債の償還計画も今の状況で借りたらこうなりますよ、過疎債が借りられるのはかなり低い確率かもしれないが、そこら辺をきちんと出してもらったほうがいいのではないかと思います。どうでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） まず、周辺の関連事業の関係ですけれども、都市構造再編集支援事業補助金の活用にあたっては、都市再生整備計画を出しておりますので、バリアフリー歩道あるいは太陽光、それとバスロケーションシステムの3事業については実施する予定とさせていただきたいと思っております。ただ、35億8,000万円の内数ではなくて、外付けの事業になってまいりますので、予算については別途提案をさせていただくことが必要になってくるかと思います。それから、補助金の関係でございます。補助金については、本年13億1,340万円を交付いただく予定となっております。今回の資料では16億2,700万円ということで、先ほども説明させていただきましたが、3億円強の金額を次年度にいただきたいということになってございます。ここについては、やはり物価上昇の可能性が出てきてから、北海道、あるいは開発局とお話ししながら、現状ではどれくらいの見込みというのは補助金の話ですので、満額取れるのかどうかも含めて見込みで言えますけれども、金額の増減はあろうかと思えますけれども、おおむね補助金自体はルール上取れるだろうという協議の中で、この16億2,700万円という金額を現状ではお示しさせていただいております。それから契約後、設計変更とか事業費の増嵩については、ないとは言えないというのが正直なところと思っております。ただ、

この後予算を通していただいて契約をするに当たっては、原則として実施設計で出された金額に基づいて事業をしていくことが契約でなっておりますので、物価上昇は我々も正直不安を隠せないところはあります。ただ、そこについては極力価格変動のない状態として取り組んでまいりたいと思っております。それから、起債の償還表については、今回は予算提案前で起債のメニューの内訳等々も示していないのが正直なところですので、議案として提案させていただいたローン計画の資料は提示するのは可能かと思っております。令和5年の予算に対しての比較についても、後日作成して提出させていただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 8番、大淵紀夫議員。

○8番（大淵紀夫君） 8番、大淵です。今回16億2,700万円の補助金を見ていると。債務負担の月では16億8,000万円だから半分ではなくて周辺整備で5,300万円くらいの計算になるのですか。最高限度額が16億8,060万円ですよ。これはぎりぎり使って、金額が上がっているから当然そうなるのだろうけど、周辺整備については、補助金含めてまだこれからになるのですか。

○議長（松田謙吾君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 今回、全体事業費の中でお示しさせていただいておりますのは、都市再生整備計画の中の病院事業、機関事業に限った事業費としての16億2,700万円になってございますので、先ほど言いました周辺の3事業については、それぞれに50%ずつの補助をいただくという前提で我々は計画をしている状況になってございます。

○議長（松田謙吾君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松田謙吾君） 質疑なしと認めます。

それでは、ご意見等はございますか。ある方はどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松田謙吾君） これをもって、町立病院改築に向けた取組状況についての協議を終了いたします。

◎閉会の宣告

○議長（松田謙吾君） 以上をもって、本日の全員協議会を閉会いたします。

（午前10時45分）